

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	小児救急医療支援事業				事業期間	平成 18 年度 ～ 年度						所管課係	ふれあいセンター管理係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	2-6-1	他に関連する基本事業	-	-	-	-	-	-	
目的 (何のために実施するのか)	中空知圏域の二次救急医療体制による休日及び平日夜間等における入院治療を必要とする小児重症患者の医療を確保する。						手段 (どのような方法で実現するのか)		各広域救急医療病院(砂川市立病院、滝川市立病院、市立赤平総合病院)に交付する小児救急医療輪番制の事業運営費を負担する。 なお、この事業は中空知5市5町による事業であるが、砂川市が幹事市となっているため、砂川市一般会計において各市町負担金の受け入れ及び各病院への交付を行っている。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	広域救急医療病院。						成果 (どのような効果が得られるのか)		広域救急病院の連携で、休日及び平日夜間等における手術・入院を要する小児重症救急患者の受け入れに対応できる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	道から一般の救急の場合と同様に、中空知圏域において当番制により小児救急医療対応が可能な病院を確保し二次救急の体制整備を進めることで、3市(砂川、滝川、赤平)と各病院に要請があり、補助(2/3)を受け、3市により事業を開始した。その後、他市町へ働きかけ、平成22年度からは5市5町による事業へ拡大し実施している。													

【DO】

実績

(単位:円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計画 合計		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31年度)	第10年次 (32年度)		実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0	
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額	5,766,000	5,757,000	5,757,000	17,280,000	5,757,000	5,757,000	5,757,000	17,271,000	5,766,000	5,766,000	5,766,000	5,766,000	23,064,000	57,615,000
		予算計上額	5,766,000	5,748,000	5,748,000	17,262,000	5,757,000	5,784,000	5,766,000	17,307,000	5,757,000	5,757,000	5,802,000	5,766,000	23,082,000	57,651,000
		実績額	5,766,000	5,748,000	5,748,000	17,262,000	5,757,000	5,784,000	3,773,000	15,314,000	5,757,000	5,749,000	5,811,000	5,766,000	23,083,000	55,659,000
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額	1,794,000	1,791,000	1,791,000	5,376,000	1,791,000	1,791,000	1,791,000	5,373,000	1,793,000	1,793,000	1,793,000	1,793,000	7,172,000	17,921,000
		予算計上額	1,793,000	1,788,000	1,788,000	5,369,000	1,790,000	1,798,000	1,793,000	5,381,000	1,790,000	1,790,000	1,803,000	1,793,000	7,176,000	17,926,000
		実績額	1,793,783	1,788,193	1,788,194	5,370,170	1,790,478	1,798,451	3,032,078	6,621,007	1,790,132	1,787,187	1,806,469	1,792,017	7,175,805	19,166,982
	一般財源	計画額	1,090,000	1,089,000	1,089,000	3,268,000	1,089,000	1,089,000	1,089,000	3,267,000	1,091,000	1,091,000	1,091,000	1,091,000	4,364,000	10,899,000
		予算計上額	1,091,000	1,088,000	1,088,000	3,267,000	1,090,000	1,095,000	1,091,000	3,276,000	1,090,000	1,090,000	1,099,000	1,091,000	4,370,000	10,913,000
		実績額	1,090,165	1,087,045	1,087,034	3,264,244	1,088,910	1,093,807	1,844,460	4,027,177	1,089,256	1,087,881	1,099,919	1,091,521	4,368,577	11,659,998
事業費合計	計画額	8,650,000	8,637,000	8,637,000	25,924,000	8,637,000	8,637,000	8,637,000	25,911,000	8,650,000	8,650,000	8,650,000	8,650,000	34,600,000	86,435,000	
	予算計上額	8,650,000	8,624,000	8,624,000	25,898,000	8,637,000	8,677,000	8,650,000	25,964,000	8,637,000	8,637,000	8,704,000	8,650,000	34,628,000	86,490,000	
	実績額	8,649,948	8,623,238	8,623,228	25,896,414	8,636,388	8,676,258	8,649,538	25,962,184	8,636,388	8,624,068	8,717,388	8,649,538	34,627,382	86,485,980	
事業費予算の内容	交付金 (3医療機関)	交付金 (3医療機関)	交付金 (3医療機関)		交付金 (3医療機関)	交付金 (3医療機関)	交付金 (3医療機関)		交付金 (3医療機関)	交付金 (3医療機関)	交付金 (3医療機関)	交付金 (3医療機関)	交付金 (3医療機関)			
前年度予算との比較 (増減理由)	日数が1日増えたことにより増額	日数が1日減ったことにより減額	前年度同額		当番区分の変動による増	日数が休日・夜間共1日増えたことによる増額	日数が1日減ったことにより減額		日数が1日減ったことにより減額	前年度同額	日数が休日・夜間共増えたことによる増額	日数が休日・夜間共に減ったことによる減額				
実績との比較 (増減理由)	同額	同額	同額		同額	同額	同額		同額	休日勤務体制変動による負担金減額3月補正△12千円	休日が増えたことに伴う負担金増額3月補正14千円	同額				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：市負担金額				指標の求め方：市負担金額									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：診療日数				指標の求め方：診療日数									
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値	1,090	1,089	1,089	1,089	1,090	1,089	1,089	1,089	1,089	1,090	1,089		
		実績値	1,091	1,088	1,088	1,089	1,094	1,845	1,090	1,088	1,100	1,092			
指標	成果指標 1 (単位/日)	計画値	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365		
		実績値	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている				達成されている					達成されている	
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない				変わらない					変わらない	
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない					変わらない	
	総合評価				良好である				良好である					良好である	
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値と同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値と同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値と同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	判断理由：二次医療圏である中空知圏域において、小児救急医療体制が確保されることから、良好と判断した。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値と同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：市負担金額においては、圏域人口割の算定により増加となった。道補助もあり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：市負担金額においては、道補助金の減額により増加となった。道補助金もあり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	判断理由：二次医療圏である中空知圏域において、小児救急医療体制が確保されていることから、良好と判断した。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：新天皇が即位したことで天皇誕生日が変更され、振替休日が増えたことにより市負担金額が増額し計画値を上回った。中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における小児救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	判断理由：二次医療圏である中空知圏域において、小児救急医療体制が確保されていることから、良好と判断した。
	今後の方向性				手段の見直し				手段の見直し					現状のまま継続	
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：二次医療圏である中空知圏域において小児救急医療体制が確保されることから事業は継続するが、砂川市の負担割合が高く、検討・調整の必要がある。				H28：二次医療圏である中空知圏域において小児救急医療体制が確保されることから事業は継続するが、砂川市の負担割合が高く推移しており、算定方法等の検討・調整の必要がある。				H30：二次医療圏である中空知圏域において小児救急医療体制が確保されることから事業は継続するが、砂川市の負担割合が高くなっていることについては、算定方法等の検討・調整をしていく必要がある。					

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	病院群輪番制運営事業				事業期間	平成 6 年度 ～ 年度						所管課係	ふれあいセンター管理係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	2-6-1	他に関連する基本事業	-	-	-	-	-	-	
目的 (何のために実施するのか)	中空知圏域の二次救急医療体制による、休日及び平日夜間等における入院治療を必要とする重症救急患者の医療を確保する。						手段 (どのような方法で実現するのか)		各広域救急医療病院（砂川市立病院、滝川市立病院、市立赤平総合病院、市立芦別病院、滝川脳神経外科病院）に交付する病院群輪番制事業運営費を負担する。 なお、この事業は中空知5市5町による事業であるが、砂川市が幹事市となっているため、砂川市一般会計において各市町負担金の受け入れ及び各病院への交付を行っている。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	広域救急医療病院						成果 (どのような効果が得られるのか)		5市5町及び広域救急病院の連携で、休日及び平日夜間等における手術・入院を要する重症救急患者の受入れに対応ができる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯（行事内容含む）	中空知圏域において、「在宅当番医制」により一次救急医療体制が図られていたが、二次救急医療体制としての「病院群輪番制」は実施されていなかったことから保健所の指導・助言で、当時の中空知地域保健医療対策協議会の会長市でセンター病院を有する砂川市が幹事となり、補助（2/3）を受け平成6年度より病院群輪番制運営事業として開始した。当初、5市3町（砂川市、滝川市、芦別市、赤平市、歌志内市、新十津川町、上砂川町、浦臼町）の参加であったが、平成10年度より奈井江町及び雨竜町が参加し5市5町となった。その後、三位一体改革により17年度から一般財源化されたが、継続実施している。													

【DO】

実績

（単位：円）

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画合計		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額	11,491,000	11,467,000	11,467,000	34,425,000	11,463,000	11,463,000	11,463,000	34,389,000	11,475,000	11,475,000	11,475,000	11,475,000	45,900,000	114,714,000
		予算計上額	11,491,000	11,453,000	11,452,000	34,396,000	11,463,000	11,512,000	11,475,000	34,450,000	11,462,000	11,472,000	11,570,000	11,470,000	45,974,000	114,820,000
		実績額	11,490,733	11,452,473	11,452,515	34,395,721	11,463,181	11,512,674	11,474,661	34,450,516	11,461,193	11,472,113	11,595,206	11,469,643	45,998,155	114,844,392
	一般財源	計画額	5,067,000	5,055,000	5,055,000	15,177,000	5,059,000	5,059,000	5,059,000	15,177,000	5,065,000	5,065,000	5,065,000	5,065,000	20,260,000	50,614,000
		予算計上額	5,067,000	5,051,000	5,052,000	15,170,000	5,059,000	5,082,000	5,065,000	15,206,000	5,060,000	5,068,000	5,113,000	5,070,000	20,311,000	50,687,000
		実績額	5,066,767	5,051,327	5,051,285	15,169,379	5,058,519	5,080,626	5,064,939	15,204,084	5,060,507	5,067,487	5,123,394	5,069,957	20,321,345	50,694,808
	事業費合計	計画額	16,558,000	16,522,000	16,522,000	49,602,000	16,522,000	16,522,000	16,522,000	49,566,000	16,540,000	16,540,000	16,540,000	16,540,000	66,160,000	165,328,000
		予算計上額	16,558,000	16,504,000	16,504,000	49,566,000	16,522,000	16,594,000	16,540,000	49,656,000	16,522,000	16,540,000	16,683,000	16,540,000	66,285,000	165,507,000
		実績額	16,557,500	16,503,800	16,503,800	49,565,100	16,521,700	16,593,300	16,539,600	49,654,600	16,521,700	16,539,600	16,718,600	16,539,600	66,319,500	165,539,200
事業費予算の内容	交付金 (5医療機関)	交付金 (5医療機関)	交付金 (5医療機関)		交付金 (5医療機関)	交付金 (5医療機関)	交付金 (5医療機関)		交付金 (5医療機関)	交付金 (5医療機関)	交付金 (5医療機関)	交付金 (5医療機関)				
前年度予算との比較 (増減理由)	日数が1日増えたことにより増額	日数が1日減ったことにより減額	前年度同額		当番区分の変動による増	日数が休日・夜間共1日増えたことによる増額	日数が1日減ったことにより減額		日数が1日減ったことにより減額	当番区分の変動による増額	日数が休日・夜間共増えたことによる増額	日数が休日・夜間共に減ったことによる減額				
実績との比較 (増減理由)	同額	同額	同額		同額	同額	同額		同額	同額	休日が増加したことに伴う負担金増額 3月補正36千円	同額				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：市負担金額				指標の求め方：市負担金額								
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：診療日数				指標の求め方：診療日数								
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値	5,067	5,055	5,055	5,055	5,067	5,055	5,055	5,055	5,067	5,055		
		実績値	5,067	5,052	5,052	5,059	5,081	5,065	5,061	5,068	5,124	5,070		
指標	成果指標 1 (単位/日)	計画値	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365		
		実績値	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)													達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)													変わらない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)													変わらない
	総合評価													良好である
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値と同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における救急医療体制の確保が図られている。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における救急医療体制の確保が図られている。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金については砂川市の負担割合が高く、検討・調整の必要がある。	判断理由：二次医療圏である中空知圏域において、救急医療体制が確保されることから、良好と判断した。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	判断理由：二次医療圏である中空知圏域において、救急医療体制が確保されることから、良好と判断した。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：市負担金額及び診療日数とも計画値とほぼ同数であり、中空知圏域において、年間を通じて休日及び夜間における救急医療体制の確保が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	判断理由：二次医療圏である中空知圏域において、救急医療体制が確保されることから、良好と判断した。
	今後の方向性													現状のまま継続
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：二次医療圏である中空知圏域において救急医療体制が確保されることから事業は継続するが、砂川市の負担割合が高く、検討・調整の必要がある。				H28：地域住民の医療体制の充実を図るため事業は継続する。砂川市の負担割合が高く推移していることから、今後、検討・調整を進める。				H30：地域住民の医療体制の充実を図るため事業は継続する。ただし、砂川市の負担割合が高くなっていることについては、今後、検討・調整を進めると考えられる。				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：市負担金額				指標の求め方：市負担金額									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：在宅当番医日数				指標の求め方：在宅当番医日数									
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値	2,160	2,160	2,160		2,160	2,160	2,160		2,160	2,160	2,160	2,160	
	実績値	2,154	2,161	2,187		2,176	2,187	2,127		2,134	2,165	2,182	2,199		
成果指標 1 (単位/日)	計画値	71	71	71		71	71	71		71	71	71	71		
	実績値	71	71	71		71	71	71		71	71	71	71		
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている				達成されている					達成されている	
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない				変わらない					変わらない	
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない					変わらない	
	総合評価				良好である				良好である					良好である	
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：市負担金額及び在宅当番医日数とも計画値とほぼ同数であり、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られている。	自己分析：市負担金額及び在宅当番医日数とも計画値とほぼ同数であり、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られている。	自己分析：医師数割の変動により市負担金額は計画値を上回っているが、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られるとともに、救急知識の普及啓発が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、検討・調整の必要がある。	判断理由：医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制が確保されることから、良好と判断した。	自己分析：医師数割の変動により市負担金額は計画値を上回っているが、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られるとともに、救急知識の普及啓発が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、均等割額を主に精査・検討の必要がある。	自己分析：医師数割の変動により市負担金額は計画値を上回っているが、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られるとともに、救急知識の普及啓発が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、医師数割等、算定方法について検討の必要がある。	自己分析：医師数割の変動により市負担金額は計画値を下回っているが、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られるとともに、救急知識の普及啓発が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、医師数割等、算定方法について検討の必要がある。	判断理由：医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制が確保されることから、良好と判断した。	自己分析：医師数割の変動により市負担金額は計画値を下回っているが、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られるとともに、救急知識の普及啓発が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、医師数割等、算定方法について検討の必要がある。	自己分析：市負担金額及び在宅当番医日数とも計画値とほぼ同数であり、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られるとともに、救急知識の普及啓発が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、医師数割等、算定方法について検討の必要がある。	自己分析：医師数割の変動により市負担金額は計画値を上回っているが、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られるとともに、救急知識の普及啓発が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、医師数割等、算定方法について検討の必要がある。	自己分析：医師数割の変動により市負担金額は計画値を上回っているが、医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制の確保が図られるとともに、救急知識の普及啓発が図られている。各市町負担金割合については砂川市の負担割合が高く、医師数割等、算定方法について検討の必要がある。	判断理由：医師会の集約により市立病院と市内開業医が分担し、初期救急医療体制が確保されることから、良好と判断した。
	今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続					現状のまま継続	
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：各市町が負担する委託料総額のうち、砂川市負担額は空知医師会を通じ砂川部会へ交付されている。砂川部会では交付された額のうち35%を在宅当番医調整事務及び救急意識普及啓発事業等のため、再度空知医師会へ納付している。砂川市における初期救急医療体制が確保されるとともに救急知識の普及啓発が図られることから、現状のまま事業を継続する。				H28：これまでどおり、各市町が負担する委託料総額のうち、砂川市負担額は空知医師会を通じ砂川部会へ交付されている。砂川部会では交付された額のうち35%を在宅当番医調整事務及び救急意識普及啓発事業等のため、再度空知医師会へ納付している。砂川市における初期救急医療体制が確保されるとともに救急知識の普及啓発が図られることから、現状のまま事業を継続する。				H30：これまでどおり、各市町が負担する委託料総額のうち、砂川市負担額は空知医師会を通じ砂川部会へ交付されている。砂川部会では交付された額のうち35%を在宅当番医調整事務及び救急意識普及啓発事業等のため、再度空知医師会へ納付している。砂川市における初期救急医療体制が確保されるとともに救急知識の普及啓発が図られることから、現状のまま事業を継続する。					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：医療機器購入件数				指標の求め方：医療機器購入件数							
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：新規購入件数				指標の求め方：医療機器整備による新機能追加							
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値	70	20	20	20	30	30	30	30	30	30
		実績値	60	66	110	107	82	84	85	94	83	93	
	成果指標 1 (単位/件)	計画値	43	5	5	5	10	10	10	10	10	10	10
		実績値	33	31	53	41	26	26	25	35	19	31	
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている							達成されている
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている							上がっている
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている							少し上がっている
		総合評価				良好である							良好である
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：計画値に対し実績は届かなかったものの、南館整備分を含めるとほぼ達成されている。医療機器整備による高度・特殊医療の確保は地域医療・患者サービスに直結することから、今後高度医療に必要な機能を十分に確保しつつ、更に安全かつ高度な医療機器の整備を計画的に推し進める。	自己分析：計画値に対し実績が大幅な増となっている。新規購入の高度医療機器の整備によるものほか、救急医療・特殊医療機器の整備によるものほか、ドクター導入による救急医療分野への機器整備すること、地域医療・患者サービスに直結することから、今後についても安全かつ高度な医療機器の整備を計画的に推し進める。	自己分析：計画値に対し実績が大幅な増となっている。ハイブリッド手術室増設による新機能搭載した高度・特殊医療機器の整備によるものほか、ドクター導入による救急医療分野への機器整備によるもので、地域医療を守るため今後についても安全かつ高度な医療機器の整備を計画的に推し進める。	判断理由：高度医療、救急医療及び特殊医療に対応すべく計画的に医療機器の整備を進めている。	自己分析：計画値に対し実績額が増となっている。新規導入の高度医療機器の整備によるものほか、地域医療・保健・介護・福祉を連携する地域包括ケアシステムの構築を図った。地域医療を守るため今後についても安全かつ高度な医療機器の整備を進める。	自己分析：計画値に対し実績額が増となっている。新規導入の高度医療機器の整備によるものほか、乳腺外科専門医の着任により最新鋭のデジタル式乳房用X線撮影装置の整備によるものである。また、病院改築時に購入を見送り移設した機器が耐用年数を超え修理不能となっている。今後においても安全かつ高度な医療機器の整備を進める。	自己分析：計画値に対し実績額が増となっている。新規導入の高度医療機器の整備によるものほか、地域医療の特殊性を的確に判断し、計画的に医療機器の整備を進めている。	自己分析：計画値に対し実績が増となっている。新規導入の高度医療機器の整備によるものほか、歯科専門医の常勤により歯科診療ユニットなどの医療機器の整備によるものである。また、病院改築時に購入を見送り移設した機器が耐用年数を超え、修理不能とされるケースも散見されることから、今後についても安全かつ高度な医療機器の整備を計画的に推し進める。	自己分析：計画値に対し実績が増となっている。新規導入の高度医療機器の整備や放射線機器更新、検査機器更新に伴うシステム改修によるものほか、病院改築以前に購入した患者用ベッドの更新によるもの他、新型コロナウイルス感染症対策強化に伴い算外の医療機器を緊急的に整備したことによるものである。また、病院改築時に購入を見送り移設した機器が耐用年数を超え、修理不能とされるケースも散見されることから、今後についても安全かつ高度な医療機器の整備を計画的に推し進める。	自己分析：計画値に対し実績が大幅な増となっている。新規導入の高度医療機器の整備や放射線機器更新、電子カルテの各種更新によるものや、病院改築以前に購入したベッドの更新によるもの他、新型コロナウイルス感染症対策強化に伴い算外の医療機器を緊急的に整備したことによるものである。また、病院改築時に購入を見送り移設した機器が耐用年数を超え、修理不能とされるケースも散見されることから、今後についても安全かつ高度な医療機器の整備を計画的に推し進める。	判断理由：高度医療及び特殊医療に対応しつつ、地域医療の特殊性を的確に判断し、計画的に医療機器の整備を進めている。
	今後の方向性				現状のまま継続							現状のまま継続	
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：医療機器を整備することは、地域医療・患者サービスに直結することから、今後についても継続的な整備を計画的に進める必要がある。また、継続する事業と考える。				H28：医療機器を整備することは、地域医療・患者サービスに直結することから、今後についても継続的な整備を計画的に進める必要がある。また、地域医療の特殊性を的確に判断し、必要な医療機器の整備を推し進めなければならないことから、継続する事業と考える。				H30：医療機器を整備することは、地域医療・患者サービスに直結することから、今後についても継続的な整備を計画的に進める必要がある。また、地域医療の特殊性を的確に判断し、必要な医療機器の整備を推し進めなければならないことから、継続する事業と考える。				

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	医師及び医療従事者確保事業				事業期間	平成 21 年度 ～ 年度						所管課係	市立病院管理課職員係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	2-6-1	他に関連する基本事業	-	-	-	-	-	-	
目的 (何のために実施するのか)	新病院における機能の充実及び多様化する中、急性期医療を担う地域の基幹病院として高度医療・特殊医療を展開し、地域住民の健康を守る。						手段 (どのような方法で実現するのか)		医師については、道内の3医育大学（北海道大学・札幌医科大学・旭川医科大学）の協力を得て各科の人員確保を行う。また、初期研修医、後期研修医については、医学生に対し施設概要・研修プログラム等の情報を提供する機会を設定し地域医療を担う医師や総合医療医の確保を行う。医療従事者については、道内各地の大学・専門学校に赴き、募集活動を行うとともに看護職員においては、全道の看護専門学校生等を対象に砂川市、砂川市立病院の魅力を紹介する目的で病院見学会を開催。更には当院のホームページに募集記事の掲載をするなど医師及び医療従事者の確保対策に取り組む。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	地域住民及び患者						成果 (どのような効果が得られるのか)		急性期医療を担う地域の基幹病院として高度医療・特殊医療を展開し、健康を阻害する疾病の複雑化などに対応した医療体制の確立と医療サービスの充実、高度な医療を提供できる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む）														

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0				237,000	237,000	237,000
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
一般財源	計画額	35,890,000	35,890,000	35,890,000	107,670,000	47,371,000	47,371,000	47,371,000	142,113,000	65,747,000	65,747,000	65,747,000	65,747,000	262,988,000	512,771,000
	予算計上額	35,890,000	38,402,000	40,715,000	115,007,000	47,371,000	54,798,000	56,879,000	159,048,000	65,747,000	73,896,000	87,011,000	107,744,000	334,398,000	608,453,000
	実績額	36,316,000	37,518,571	39,738,004	113,572,575	45,637,567	51,247,952	56,148,577	153,034,096	62,465,325	74,754,365	83,560,038	94,003,133	314,782,861	581,389,532
事業費合計	計画額	35,890,000	35,890,000	35,890,000	107,670,000	47,371,000	47,371,000	47,371,000	142,113,000	65,747,000	65,747,000	65,747,000	65,747,000	262,988,000	512,771,000
	予算計上額	35,890,000	38,402,000	40,715,000	115,007,000	47,371,000	54,798,000	56,879,000	159,048,000	65,747,000	73,896,000	87,011,000	107,744,000	334,398,000	608,453,000
	実績額	36,316,000	37,518,571	39,738,004	113,572,575	45,637,567	51,247,952	56,148,577	153,034,096	62,465,325	74,754,365	83,560,038	94,240,133	315,019,861	581,626,532
事業費予算の内容	給与費		給与費	給与費		給与費	給与費	給与費		給与費	給与費	給与費	給与費		
	前年度予算との比較 (増減理由)	医師事務作業補助者の増員及び短時間勤務医師の賃金の上昇	医師事務作業補助者の増員及び短時間勤務医師の賃金の上昇	医師事務作業補助者の増員及び短時間勤務医師の賃金の上昇		医師事務作業補助者の増員および賃金上昇	医師事務作業補助者の増員及び嘱託職員化	嘱託医師事務作業補助者の増員		嘱託医師事務作業補助者の増員	医師事務作業補助者2名を職員として新規採用	時間制、臨時及び嘱託医師事務作業補助者の増員	会計年度任用職員制度への移行による報酬及び手当の増額		
	実績との比較 (増減理由)	医師事務作業補助者17名より18名に1名増員	医師事務作業補助者の退職等で17名の期間があったため	医師事務作業補助者の退職等で欠員の期間があったため		医師事務作業補助者の退職等で欠員の期間があったため	医師事務作業補助者の退職等で欠員の期間があったため	医師事務作業補助者の退職等で欠員の期間があったため		医師事務作業補助者の退職等で欠員の期間があったため	医師事務作業補助者の増員があったため	医師事務作業補助者の増員、単価の増加があったため	人事院勧告により期末手当の率が下がったため		

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：看護師対策活動数				指標の求め方：看護師対策活動数									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：看護師応募者数				指標の求め方：看護師応募者数									
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	14	14	14		14	14	14		6	6	6	6	
		実績値	14	14	13		15	14	14		5	2	1	0	
指標	成果指標 1 (単位/人)	計画値	40	40	40		40	40	40		30	30	30	30	
		実績値	36	43	33		30	41	44		48	34	34	39	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている					達成されている				ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている					上がっている				少し上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている					上がっている				少し上がっている
	総合評価					良好である					良好である				良好である
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：各学校訪問、病院紹介等を積極的に行ったことにより目標値を概ね達成	自己分析：各学校訪問、病院紹介等を積極的に行ったことにより目標値を概ね達成	自己分析：各学校訪問、就職説明会への参加、病院紹介等を積極的に行ったことにより目標値を概ね達成	判断理由：学校訪問、病院紹介等を積極的に行ったことにより、目標を達成出来ている。	自己分析：各学校訪問、就職説明会への参加、病院紹介等を積極的に行ったことにより、目標値を概ね達成	自己分析：各学校訪問、就職説明会への参加、病院紹介等を積極的に行ったことにより、目標値を達成	自己分析：各学校訪問、就職説明会への参加、病院紹介等を積極的に行ったことにより、目標値を達成できた。また、職員数についても概ね確保できた	判断理由：学校訪問、病院紹介等を積極的に行ったことにより、目標を達成できている。	自己分析：これまで各学校訪問、就職説明会等へ積極的に参加し病院紹介を行ったことにより目標値を達成できた。また、看護職員は概ね確保されたことにより、今後については不足の除算し確保を中心に実施。	自己分析：これまでの学校訪問、就職説明会等の開催により病院紹介を積極的に進めてきた結果、目標値を達成できた。また、看護職員については概ね確保された。今後については不足の助産師確保対策中心に実施。	自己分析：これまでの学校訪問、就職説明会等の開催により病院紹介を積極的に進めてきた結果、目標値を達成できた。また、看護職員については概ね確保された。助産師についても内部及び附属看護専門学校からの人材養成に切り替えた結果、概ね確保された。	自己分析：新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校訪問、就職説明会等の開催はできなかつたが、これまで病院紹介を積極的に進めてきた結果、目標値を達成できた。また、看護職員については概ね確保された。助産師についても内部及び附属看護専門学校からの人材養成に切り替えた結果、概ね確保された。	判断理由：これまでの学校訪問、就職説明会等の開催により病院紹介を積極的に進めてきたことにより、目標を達成できている。また、看護師については概ね確保された。
	今後の方向性				現状のまま継続					現状のまま継続					現状のまま継続
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 一定の成果が出ているので、現状のまま継続していく。				H28： 一定の成果が出ているので、現状のまま継続していく。				H30： 一定の成果が出ているので、現状のまま継続していく。					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 研修(学会)参加者数	指標の求め方: 研修(学会)参加計画に基づく参加者数(研修参加計画は毎年度在籍している職員に応じ策定するものであるため、年度当初ごとに記載していくものとする)
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 研修(学会)参加率	指標の求め方: 参加者数/参加計画参加予定者数

事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値	729	775	849		1,159	1,386	1,161		1,293	1,584	1,400	1,470	
			実績値	719	879	856		896	894	958		985	1,197	1,129	154	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0		
		実績値	98.6	107	101		77	65	83		76	76	81	10		
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている					ほぼ達成されている					ほぼ達成されている
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている					変わらない					変わらない
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない					変わらない					変わらない
		総合評価				良好である					良好である					良好である
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 概ね良好(計画通りに執行)	自己分析: 学会参加者は医療の高度化、細分化により増加傾向だが、おおむね良好	自己分析: 学会参加者は医療の高度化、細分化により増加傾向また、専門・認定資格取得者が増加しているため、長期研修参加者が増加しているが、概ね良好	判断理由: 医療の高度化、細分化が進む中、各種学会に積極的に参加している状況であり、概ね良好である。	自己分析: 学会参加者は増加傾向にあるが、業務の都合等の理由により不参加となることがある	自己分析: 学会参加者は増加しているが、業務の都合等の理由により不参加となることがある	自己分析: 学会参加者は増加しているが、業務の都合等の理由により不参加となることがある	判断理由: 医療の高度化、細分化が進む中、各種学会に積極的に参加している状況であり、概ね良好である	自己分析: 学会参加者は増加しているが、患者増など業務の都合等の理由により不参加となることがある	自己分析: 学会参加者は増加しているが、患者増など業務の都合等の理由により不参加となることがある	自己分析: 学会参加者は増加しているが、業務の都合等により不参加となることがある。また、コロナ禍により2月以降の研修会・学会等が中止となり実績値に影響はあったが、概ね良好である。	自己分析: 新型コロナウイルス感染症蔓延により、年度を通して研修会・学会等が中止または延期となり実績値に大きな影響があった。	判断理由: 医療の高度化、細分化が進む中、各種学会に積極的に参加している状況であり、概ね良好である。	
	今後の方向性				現状のまま継続					現状のまま継続					現状のまま継続	
方向性の判断理由改善、改革の内容(H25、H28、H30)	H25: 医療の高度化、細分化が進む中、各種学会に積極的に参加し、最先端の医療を取得し、当院の患者さんに還元できているため、本事業は継続していくが、参加費用増加が予想されるため効率性(参加学会の精査)の検討を要する。			H28: 各種学会等に参加し、最先端の医療技術を取得し、当院の患者さんに還元できるため、本事業は継続していく			H30: 医療の高度化に対応するため各種学会や講習会等に参加し、診療報酬の算定につなげるとともに、新たな医療技術を取得することにより当院の患者に還元できるため、本業務は継続していく									

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名: 時間外救急受診者数				指標の求め方: 時間外救急受診者数								
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名: 時間外救急入院者数				指標の求め方: 時間外救急入院者数								
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
		実績値	10,612	11,224	11,588	10,447	10,546	10,565	10,700	10,688	10,899	10,987	7,987	
成果指標 1 (単位/人)		計画値	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	
		実績値	1,730	2,041	2,409	2,348	2,299	2,332	2,467	2,398	2,383	2,276		
事業内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)													達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)													上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)													上がっている
	総合評価													良好である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 救急患者については原則、全員受け入れしている結果が患者数の増加と考える。また、ドクターヘリの受け入れについても、前年度が5件に対し今年度は11件と大幅に増加している。	自己分析: 救急患者については原則、全員受け入れしている結果が患者数の増加と考える。また、近年中空知医療圏外からの救急車搬送が増加し、ドクターヘリの受け入れについても前年度より23件増加している。	自己分析: 救急患者については原則、全員受け入れしている結果が患者数の増加と考える。また、南空知からの救急搬送(転院搬送含む)が増加傾向にある。	判断理由: 市外からの救急患者の受け入れは全体の66.9%と多く、地域救命救急センターとして役割を達成していると考え。	自己分析: 前年に比べ受診者数は減少しているが、救急車の受け入れ件数は増加。また、H25.12からはドクターカーの運行を開始し、救命率の向上に努めている	自己分析: 前年に比べ受診者数は増加しており、救急車の受け入れ件数も増加。また、H25.12からはドクターカーの運行を開始し、救命率の向上に努めている	自己分析: 前年に比べ受診者数は増加しており、救急車の受け入れ件数も前年に対し2.2%増加。また、H25.12からはドクターカーの運行を開始し、救命率の向上に努めている	判断理由: 市外からの救急患者の受け入れは全体の65.6%と多く、地域救命救急センターとして役割を達成していると考え。	自己分析: 前年度より受診者数、救急車受入数も増加しており、地域センター病院・地域救命救急センターとしての役割は達成している。	自己分析: 前年度と同程度の救急患者を受け入れており、地域救命救急センターとしての役割は達成している。	自己分析: 前年度と同程度の救急患者を受け入れており、地域救命救急センターとしての役割は達成している。	自己分析: 受診者数は前年度に比べ減少しているが、中空知医療圏はもちろん圏外の患者についても14%受入れており、地域救命救急センターとしての役割は達成している。	判断理由: 地域救命救急センターとして、市内及び管内の救急患者を断らずに受け入れている。
今後の方向性														現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25: 救命救急センターの方針である「救急患者は原則、全員受け入れ」を今後も継続し救急医療を提供する。また、H25.11にはドクターカーを導入し、重症患者の救命率の向上を目指す。				H28: H25と同様、救命救急センターの方針である「救急患者は原則、全員受け入れ」を今後も継続し救急医療を提供する。また、ドクターカー運用に伴う重症患者の救命率向上を目指す。				H30: 当院地域救命救急センターの方針である「救急患者は原則、全員受け入れ」を今後も継続し救急医療を提供する。また、ドクターカー運用に伴う重症患者の救命率向上を目指す。					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名: 災害時受入傷病者数			指標の求め方: 災害時受入傷病者数 (1 災害時)											
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名: 救命率			指標の求め方: 軽快・治癒の患者/受入傷病者数×100											
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値	320	320	320		600	600	600		1,000	1,000	1,000	1,000	
		実績値		0	0	0		0	0	0		0	0	0	0	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0	
		実績値		-	-	-		0	0	0		0	0	0	0	
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されていない					達成されていない				達成されていない
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっていない					上がっていない				上がっていない
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっていない					上がっていない				上がっていない
		総合評価					大きな問題がある					大きな問題がある				大きな問題がある
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 23年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	自己分析: 24年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	自己分析: 25年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	判断理由: この3カ年については災害患者の受け入れ要請はなかった。	自己分析: 26年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	自己分析: 27年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	自己分析: 28年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	判断理由: この3カ年については災害患者の受け入れ要請はなかった。	自己分析: 29年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	自己分析: 30年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	自己分析: 令和元年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	自己分析: 令和2年度については災害患者の受け入れ要請がなかった。	判断理由: この2カ年については災害患者の受け入れ要請がなかった。	
		今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続					現状のまま継続	
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25: この3カ年は、災害患者の受け入れ要請がなかったが、災害時においては初療が可能な体制を執り対応を図る。				H28: この2カ年は、災害患者の受け入れ要請がなかったが、災害時においては初療が可能な体制を執り対応を図る。				H30: 災害患者の受け入れ要請はなかったが、H30.9.6北海道胆振東部地震によるブラックアウトが発生したことに伴う傷病者受け入れ態勢構築等の対応はできた。						

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	感染症対策事業				事業期間	— 年度 ~ — 年度				所管課係	市立病院医事課業務係						
	事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外		建設外	第6期総合計画の位置付け	2-6-1	他に関連する基本事業			—	—	—	—		
目的 (何のために実施するのか)	季節性インフルエンザ等の感染症の予防に加え、第2種感染症指定医療機関として、感染症が発生した場合24時間緊急対応可能な体制を確保し、地域住民に対し速やかに対応する。												手段 (どのような方法で実現するのか)	季節性のインフルエンザ対策（予防接種）。また、その他の感染症について、救急科において24時間緊急対応可能な体制で対応する。			
対象 (誰・何を対象としているのか)	地域住民、感染症にかかった患者												成果 (どのような効果が得られるのか)	感染症が発生した場合、早期治療による症状の軽減や悪化の防止 感染拡大防止及び救命率の向上。			
事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む）																	

【DO】

実績

（単位：円）

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画計		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
投入された事業費	国費	計画額			0				0					0	0	
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
一般財源	計画額	2,900,000	2,900,000	2,900,000	8,700,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	7,800,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000	15,600,000	32,100,000	
	予算計上額	2,900,000	2,600,000	2,600,000	8,100,000	2,600,000	2,600,000	3,900,000	9,100,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000	15,600,000	32,800,000	
	実績額	2,352,000	2,332,000	2,392,000	7,076,000	2,196,000	3,444,000	3,480,000	9,120,000	3,453,000	3,588,000	3,450,000	3,756,000	14,247,000	30,443,000	
事業費合計	計画額	2,900,000	2,900,000	2,900,000	8,700,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	7,800,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000	15,600,000	32,100,000	
	予算計上額	2,900,000	2,600,000	2,600,000	8,100,000	2,600,000	2,600,000	3,900,000	9,100,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000	15,600,000	32,800,000	
	実績額	2,352,000	2,332,000	2,392,000	7,076,000	2,196,000	3,444,000	3,480,000	9,120,000	3,453,000	3,588,000	3,450,000	3,756,000	14,247,000	30,443,000	
事業費予算の内容		1ml 1,200本 × 2,000 0.5ml 500本 × 1,000	1ml 1,300本 × 2,000	1ml 1,300本 × 2,000		1ml 1,300本 × 2,000	1ml 1,300本 × 2,000	1ml 1,300本 × 3,000		1ml 1,300本 × 3,000						
	前年度予算との比較 (増減理由)		接種者の減少	前年どおり		前年どおり	前年どおり	ワクチンが3価から4価に移行し、単価が上昇したため		前年どおり	前年どおり	前年どおり	前年どおり			
	実績との比較 (増減理由)		接種者の減少	接種者の減少	接種者の増		接種者の減少	ワクチンが3価から4価に移行し、単価が上昇したため		接種者の減少	接種者の減少	接種者の減少	接種者の減少			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：インフルエンザ予防接種者数				指標の求め方：インフルエンザ等予防接種者数				成果指標 1 (「成果」をもとに設定)				指標名：インフルエンザ等による死亡者数				指標の求め方：インフルエンザ・新型インフルエンザなどの感染症による死亡者数							
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値	2,700	2,700	2,700		2,700	2,700	2,700		2,700	2,700	2,700	2,700		2,700	2,700	2,700	2,700		2,700	2,700	2,700	2,700	
		実績値	2,319	2,335	2,423		2,289	2,179	2,281		2,019	2,392	2,300	2,504		0	0	0	0	0		0	0	0	0
成果指標 1 (単位/人)		計画値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
		実績値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
事業内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない									あまり達成されていない									あまり達成されていない	
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている									変わらない										変わらない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない									あまり上がっていない										あまり上がっていない
	総合評価					問題がある									問題がある										問題がある
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：前年においては、新型インフルエンザが流行したためワクチン接種希望者が増加したが、今年度は新型インフルエンザが終息し例年どおりの季節性インフルエンザとなった。	自己分析：新型インフルエンザが発生しなかったことにより、前年度とほぼ同数となった。	自己分析：新型インフルエンザが発生しなかったことにより、計画値には届かなかったが、一般患者の接種者が増となる。	判断理由：新型インフルエンザが発生しなかったことにより、計画値より減少となったが、季節性インフルエンザの摂取希望者についても増加するよう院内外でのPR方法について検討が必要と考える。	自己分析：職員の接種者は増加したが、一般患者の接種者が減少となった。	自己分析：新型インフルエンザが発生しなかったこと、ワクチンの価格が上昇し、個人負担が増えたことで接種者が減少したと考えられる。	自己分析：一般患者の接種及び職員の接種共に増加した。	判断理由：新型インフルエンザが発生しなかったこと、一般の患者数も減少したこと、計画値より下回った。季節性インフルエンザの接種数を増やすためのPR活動を検討する必要があると考える。	自己分析：一般患者の接種者が減少した	自己分析：新型ウイルスが発生しなかったことから活動指標が下回った。	自己分析：職員の接触者は増加したが、一般患者の接種者が減少となった。	自己分析：予防接種意識が高まり一般患者の接種者が増加した。	判断理由：新型インフルエンザが発生しなかったことから活動指標計画値を下回った。											
今後の方向性					現状のまま継続									現状のまま継続											現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：近年、新型のウイルスが発生することが多いことから、方向性は現状継続とするが、毎年流行する季節性インフルエンザの予防接種のPR方法についてはHPでの掲載や予約開始日を早めるなど検討する。				H28：新型のウィルス発生時に対応できる体制をとるため、方向性は現状のまま継続するが、季節性インフルエンザに対する予防接種はホームページの掲載等で行っていく。				H30：計画策定時同様に新型ウイルス発生時の需要急増に対応できる体制を維持するため現状のまま継続していく。																

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：各種健診受診者数				指標の求め方：各種健診受診者数									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：健診結果票の要精密検査対象者数				指標の求め方：健診結果票の要精密検査対象者数 (健診の結果 (成果) については計画値の設定が困難であるため実績値のみの管理とする)									
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	
		実績値	2,870	3,380	3,734	3,773	3,917	4,088	4,451	4,346	4,338	4,391			
成果指標 1 (単位/人)	計画値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	実績値	963	767	730	711	737	829	917	874	889	800				
事業内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)														達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)														
	事業の効率性 (事業費に対する成果)														
	総合評価														良好である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：PET検診及び砂川市民を対象とした特定健診の受け入れに伴う健診者数が増加した。	自己分析：受検者数は全健診について増加してきておりPR等が周知されていると考えられる。	自己分析：受検者数の拡大に向けH25.10より検診日を週1回増やしたことに伴い受検者が増加した。	判断理由：今後も更なるPR活動を継続・強化し、受検者数の増加に努め、一般市民及び事業所等の健康診断を通して、市民の健康を守る。	自己分析：事業所健診が増加した。また、ふるさと納税の高額納税者に対しPET検診が受けられる特典になったことで検診者が増加した。	自己分析：受検者数が増え、健診が多いため全体的に増加した。ホームページを見た声もあり、市民の健康への意識が高くなっていると考えられる。	自己分析：受検者数が増え、健診が多いため全体的に増加した。平成28年9月より3Dマシグラフィに更新したことから、乳がん健診が増加した。	判断理由：活動指標より受検者数が大幅に上回り、PR等の効果が現れている。今後も継続的にPR等を行い、受検者数の増加を図る。	自己分析：H29.6よりピロリ菌検診を開始したことにより、受検者が増加した。また、昨年更新した3Dマンモグラフィについても増加している。	自己分析：引き続き好調に推移している。健診パンフレットやホームページを利用したPR活動の継続を行っていく。	自己分析：新たに取り扱いを開始した心臓ドックにより、受診者数の底上げに繋がっており、引き続き好調に推移している。広報活動を継続し、受診者数の確保に努めていく。	自己分析：本市職員の健康診断時期について調整を行い、一般の方がより健康診断の予約を取りやすい環境整備を行い受診者の増加に務めた。	判断理由：活動指標を大幅に上回り推移している。パンフレットの作成によるPR活動や、新たな検診メニューの取扱いを開始するなど、市民の健康に貢献した。	
今後の方向性					現状のまま継続										現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：受検者数も活動指標を大きく上回りPR等が周知されていると考えられる。今後、さらに受検者の拡大に向け検診日を週1回増やす計画である。				H28：前年度よりも受検者数が増え、活動指標も大きく上回った。全体的に増加傾向にあるが、前年度と比較し子宮がん・乳がんのクーポンを利用した受検者が減少している。今後はクーポンが使える検診日を増やすことで改善できると考え、これを検討していきたい。				H30：活動指標である受検者数について、堅調に推移しており、これまで行ってきた活動を継続していく。今後は更なる受検者数の増加に向け、新たな健診メニューの策定やオプション検診の充実について検討していきたい。						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：市民公開講座参加者数				指標の求め方：市民公開講座参加者数								
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：がん相談支援件数				指標の求め方：がん相談支援件数								
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値	200	200	200		200	200	200		200	200	200	200
		実績値	152	186	118		71	40	151		50	111	60	0
成果指標 1 (単位/件)		計画値	200	200	200		200	200	200		200	200	200	200
		実績値	433	542	597		653	856	1,225		1,049	1,057	1,016	817
事業内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている									ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている									変わらない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている									変わらない
	総合評価				良好である									良好である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：年4回を予定していたが、3回の開催に終わった。相談件数は増加している。	自己分析：開催回数については、前年度と同じ3回実施した。参加者数は、がんサロンの実施などによる周知により、前年度に比べて25%増加している。	自己分析：開催回数は前年度と同じ3回実施する。参加者数の減少は多少マンネリ化している傾向と考えられる。相談件数はがんに対する積極的関与が定着しつつあり、益々増加傾向となっている。	判断理由：講座内容については、ここ数年の開催にて、ある程度の周知は実践できたと考ええる。今後は、市民側の要望にも応える形で実施して行くことが必要と考えられる。また、支援の拡大に関しては、限られたスタッフの状況下では厳しい状況であることから支援の質を向上させて行くことが必要となる。	自己分析：開催回数は前年度と同じ3回を予定していたが、2回の実施となった。相談件数はがんに対する積極的関与が定着しつつあり、増加傾向となっている。	自己分析：過去26回開催しては、がんに関する情報をある程度周知できたと考え、開催回数は1回にとどまった。相談件数は、がんの治療に関することから、治療費用、緩和ケアなど多岐に渡って増加している。また、H26.7から、がん相談支援センターを設置し、がん患者さんに積極的に関与している。	自己分析：平成28年6月の第28回は58名の参加、平成29年2月の第29回は93名と、過去5年では最大の参加があり、内容や広報について見直したことが要因と考えられる。がん相談は昨年途中から臨床心理士の専任化に伴い増加となった。	判断理由：がん患者は増加し、また死亡率も高いことから、予防・治療の方法などを理解してもらうことが常に必要であると考えられる。がん患者への支援については、相談が第一歩と考え、そこから治療・緩和ケア等につなげていく必要がある。	自己分析：平成29年9月の第30回は悪天候(台風)のため中止となった。平成30年2月の第31回は50名の参加であった。なお、第29日より市役所との共催としており、参加者増加に向けて内容を検討する。相談件数については、昨年と比較すると減少しているが、1000件程度を目標にしていきたい。	自己分析：平成30年6月の第32回は78名の参加、平成30年11月の第33回は33名の参加であった。相談件数については前年目標とした件数に達した。	自己分析：令和元年6月実施予定は悪天候(台風)のため中止となった。11月の第34回は60名の参加であった。相談件数は目標値の1000件を達成した。	自己分析：令和2年度はコロナの影響で市民講座は開催できなかった。また、患者数の減少に伴い、相談支援件数も減少し、1000件を下回った。	判断理由：市民講座の参加者目標達成できていないが、がん患者は増加しており、予防・治療の方法などを理解してもらうことが常に必要であると考えられる。がん患者への支援については、相談が第一歩と考え、そこから治療・緩和ケア等につなげていく必要がある。
今後の方向性				現状のまま継続										現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：市民講座に関しては、多くの市民に認知され、内容についても、その時々の医療の変化に対応した内容を取り上げていることから、今後も継続して行く。また、専門医師からの講演形式だけでなく、患者及び患者家族の声にも柔軟に対応出来るイベントも検討して行く。				H28：市民講座に関しては、多くの市民に認知されていると考えるが、今年度から乳腺外科を開設したことや、毎年多くのがん患者が増えること、緩和ケアのことなど、まだまだ周知することが必要であるため、今後、市民参加型など内容を検討しながら継続していく。相談・支援については、がん相談支援センターの機能を強化しつつ、今後も継続していく。				H30：市民講座に関しては、多くの市民に認知されていると考えるが、がん患者は増加しており今後も内容を検討しながら継続していく。また、がん対策推進基本計画においてがん教育の充実に努めることが示されたこともあり、砂川市独自のがん教育を開始した。次計画では「啓発・普及活動」として目標値の範囲を広げたい。相談・支援については、がん相談支援センターの機能を強化しつつ、今後も継続していく。					

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	ボランティア活動事業				事業期間	平成 16 年度 ~		— 年度				所管課係	市立病院地域医療連携課地域医療連携係
	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	2-6-1	他に関連する基本事業	—	—	—	—		
目的 (何のために実施するのか)	病気になる病院で診察や治療を受け、場合によっては入院することもあるため、ボランティア活動を通じて病院との関わりをもっといただき、地域の方々が安心して、かつ、身近にかかれるような病院となる。 また、医師や看護師など専門職の業務はできないが、病院の中には専門職でなくてもできる仕事が多々あるということや病院の動きを理解していただき、地域社会と病院との橋渡しの役割を担う。							手段 (どのような方法で実現するのか)	現行のボランティア数の増員を図り、きめ細かなサービスを行う				
対象 (誰・何を対象としているのか)	地域住民及び患者							成果 (どのような効果が得られるのか)	ボランティアの方々に医療、病院の在り方を理解していただくことにより地域住民に対し病院の理解を深めてもらう。				
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	H16年1月よりボランティア活動を開始し、現在13人の登録があり、外来患者さんの受診支援や患者図書室の整理を行っている。 H24年より、がんサロンのサポーターもボランティア登録することとなった。												

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額				0			0					0	0
		実績額				0			0					0	0
	道費	計画額				0			0					0	0
		予算計上額				0			0					0	0
		実績額				0			0					0	0
	地方債	計画額				0			0					0	0
		予算計上額				0			0					0	0
		実績額				0			0					0	0
	その他	計画額				0			0					0	0
		予算計上額				0			0					0	0
		実績額				0			0					0	0
一般財源	計画額	203,000	203,000	203,000	609,000	203,000	203,000	203,000	609,000	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000	1,258,000
	予算計上額	203,000	66,000	53,000	322,000	35,000	20,000	20,000	75,000	10,000	10,000	22,000	29,000	71,000	468,000
	実績額	65,900	52,190	49,620	167,710	15,520	9,450	9,900	34,870	0	0	10,200	9,500	19,700	222,280
事業費合計	計画額	203,000	203,000	203,000	609,000	203,000	203,000	203,000	609,000	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000	1,258,000
	予算計上額	203,000	66,000	53,000	322,000	35,000	20,000	20,000	75,000	10,000	10,000	22,000	29,000	71,000	468,000
	実績額	65,900	52,190	49,620	167,710	15,520	9,450	9,900	34,870	0	0	10,200	9,500	19,700	222,280
事業費予算の内容		ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料	ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料	ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料		ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料	ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料	ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料		ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料 (新規登録者1名分)	ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料	ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料	ボランティア保険料 HBs検査 ワクチン接種料		
	前年度予算との比較 (増減理由)	前年度予算計上なし	前年度実績見込みにより減	前年度実績見込みにより減		前年度実績見込みにより減	前年度実績見込みにより減	前年度予算同額		前年度実績により減	前年度予算同額	検査・ワクチン接種料は実施内容によって金額が異なるがすべて実施時の金額として予算計上するため	ボランティア登録人数の増加に伴う増		
	実績との比較 (増減理由)	すでに抗体を保有している者や、ワクチンを希望しない者がいたため減額 検査10人→6人 ワクチン30回→8回	すでに抗体を保有している者や、ワクチンを希望しない者がいたため減額 検査6人→2人 ワクチン8回→6回	すでに抗体を保有している者や、ワクチンを希望しない者がいたため減額 検査6人→5人 ワクチン8回→1回		すでに抗体を保有している者や、ワクチンを希望しない者がいたため減額 検査6人→2人 ワクチン8回→0回	すでに抗体を保有している者や、ワクチンを希望しない者がいたため減額	前年同様、検査・ワクチンの希望者は0人であったが、新規登録者が1名増えたため、保険料1名分増額		前年同様、検査・ワクチンの希望者は0人であったが、新規登録者を1名と仮定し保険料1名分を予算とする	前年同様、検査・ワクチンの希望者は0人であったが、新規登録者を1名と仮定し保険料と検査料1名分を予算とする	前年同様、検査・ワクチンの希望者は0人であったが、新規登録者を1名と仮定し保険料と検査料1名分を予算とする	前年度と比較して、保険料19人から17人となり減額(ボランティア登録者数は同じ)		

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名: ボランティア研修会				指標の求め方: ボランティア研修会を開催した数								
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名: ボランティア登録者数				指標の求め方: 年度未登録者数								
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
		実績値	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指標	成果指標 1 (単位/人)	計画値	13	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
		実績値	13	13	20	20	23	24	20	24	23	23	23	23
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている				達成されている				達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				上がっている				少し上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない				少し上がっている				上がっている
	総合評価					普通である				普通である				良好である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析: 特になし	自己分析: 研修会の開催では、事前に計画の目的周知が不足であった。また、配置数では計画より1名減であるが、運用面での支障がないため増員していない。	自己分析: 研修会については実施できなかったが、ボランティアが参加できる院内の研修会に参加し、スキルアップを図ることはできた。また、登録者の増員については、がんサロンのピアサポーター7名について、ボランティアとして登録したため。	判断理由: 活動範囲と目的の徹底周知と教育を再点検し、適正な配置計画を協議。	自己分析: 研修会については実施できなかったが、ボランティアが参加できる院内の研修会に参加し、スキルアップを図ることはできた。	自己分析: 研修会については実施できなかったが、ボランティアが参加できる院内の研修会に参加し、スキルアップを図ることはできた。	自己分析: 研修会については実施できなかったが、ボランティアが参加できる院内の研修会に参加し、スキルアップを図ることはできた。	判断理由: 活動範囲と目的の徹底周知と教育を再点検し、適正な配置計画を協議。また、新たな活動の検討と増員について協議。	自己分析: 研修会については実施できなかったが、ボランティアが参加できる院内の研修会に参加し、スキルアップを図ることはできた。	自己分析: 研修会については実施できなかったが、ボランティアが参加できる院内の研修会に参加し、スキルアップを図ることはできた。	自己分析: 研修会については実施できなかったが、定期的なカンファレンスを実施し、スキルアップを図ることができた。	自己分析: コロナの影響により、研修会やカンファレンスは実施できなかった。
今後の方向性					拡大				拡大					拡大
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)		H25: ボランティアの意識調査及び運用の見直し作業を実施すると共に、院内図書室のサービス拡大やがんサロンの利用拡大に向け、ピアサポーターの協力など検討して行く。				H28: ボランティアの意識調査及び運用の見直し作業を実施すると共に、院内図書室のサービス拡大やがんサロンの利用拡大に向け、ピアサポーターの協力など検討して行く。また、新たな活動内容の協議や登録者の増員など検討していく。				H30: ボランティアの患者等への評判は非常に良い。がんピアサポーターの登録者数は増加しているが、院内ボランティアは常時募集しているが増加せず、登録者の高齢化に伴い減少している。				